

# ね そ

白川郷荻町集落の自然環境を守る会 発行 平成18年6月号

## 守る会の活動指針（国際フォーラム白川郷宣言より）

- (1) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- (2) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- (3) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

指針の具現化にむけ、今後も話し合いと活動の検討を進めていきたいと考えています。  
皆様のご意見を守る会委員にお寄せください。

## 休耕地復元にむけての取り組み

守る会では、今年度新たに上町地内で約1.5アールの水田1枚を復元する作業を実施し、去る6月8日に田植えを行いました。復元前の水田は、約2割がスギナ草が繁茂して水がしみ出る湿田状態で、8割はオオガヤで覆われ株が大きく生長していました。当初は休耕地復元を簡単に考えていましたが、株の処理には重機が無ければ手におえず、復元することの大変さを実感しました。

この時期の荻町合掌集落内の耕地は、水田に浮かび上がる合掌造り家屋の姿がとても素晴らしく、世界遺産としての美しい景観の一つとなっています。しかし、集落内の水田は湿田・沼田が多く耕作が困難であるとともに、近年の安価な米事情からか休耕地も多くなっていました。

こうした休耕地を水田に復元する事業は、世界遺産合掌造り保存財団が中心となって行っており、今年度は46アールを耕作すると聞いています。

また、白川小学校や白川村役場でも集落内で稲を耕作し、景観保全に努めていただいております。

このほか、集落内で田を個人的に借り上げて耕作している人や、観光客への農業体験の場としての田の活用、「蛍の会」の蛍を増やす場としての田の活用、花ショウブを育てて美しい景観を保つ取り組みなど、各所で耕地を荒らさない努力が行われております。また、これらの取り組みに賛同し、休耕地の復活に踏み切った方もお見えになるとうかがいました。

今後も皆さんとともに耕地を保全する取り組みに邁進したいと考えていますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

(板並)



[水田としてよみがえった休耕地]

## = 5月の活動報告 =

- 5月7日 守る会役員会(4名)
- 5月10日 守る会定例会(16名)
- 5月12日 17年度1~3月分会計監査(2名)
- 5月21日 荻町交通規制(4名)
- 5月24日 麻の種まき作業(7名)
- 5月24~26日 第28回全国伝建群総会・研修会  
(埼玉県川越市 2名)
- 6月2~3日 休耕地耕作作業(4名)

= 各組の皆様へ =

守る会定例会は、毎月10日前後に開催いたします。現状変更申請を出す場合は、2週間前までに財団または各組代表の委員さんへ提出してください。よろしくお願いたします。

# 平成18年度第28回全国伝統的建造物群保存地区協議会 総会・研修会並びに住民プログラム参加報告書

1. 日 時 平成18年5月24日(水)～26日(金) 3日間
2. 場 所 埼玉県川越市 川越プリンスホテル 川越伝建地区
3. 参加者 守る会より住民代表として 事務局長 大 泉 信 吾  
書記会計 和 田 正 人  
白川村役場より 財団局長 飯 波 直 文  
教育委員会 近 藤 久 善

## 4. 住民プログラム研修日程

日	時 間	内 容
24 日	13:00～15:50	受付・事例発表
	16:00～17:30	記念講演 演題：「川越一番まちづくり・商店街のこれまでとこれから」 講師：千葉大学教授 福川裕一氏
	17:40～18:00	郷土芸能鑑賞 川越祭りばやし(幸町囃子会)
	18:00～20:00	情報交換会
25 日	9:00～13:00	現地フィールドワーク(川越伝建地区) 昼食
	13:00～14:00	文化庁講演 文化財調査官 西山和宏氏
	14:10～17:40	意見交換会 分科会・全体会
	17:50～18:10	郷土芸能鑑賞 長唄「四季の川越」演舞
	18:10～20:10	情報交換会
26 日	8:30～11:30	現地フィールドワーク(市立博物館・川越城本丸御殿・喜多院)
	11:30～	解散

上記研修会に参加させていただきました所感を以下にまとめましたので、ご一読いただきますと幸いに存じます。

### 記念講演(福川裕一教授)

平成11年に川越市の蔵造りの町並みが重要な建造物群保存地区選定に至るまでの経緯とその後の町並み保存と商業化の両立にむけての概要を説明いただきました。川越市の経緯と現状を通して、伝統的建造物群保存地区制度の概要を自分なりに学ぶことができました。伝建制度が、市町村と住民が伝建地区を決め、主体的に現状変更の許可、修理、修景等の保存事業を進め、それに対して国が重要伝統的建造物群保存地区の選定を行い、県とともに国が補助金の財政的支援と技術的指導を行う制度であることがよくわかりました。その意味からも保存地区決定の主体となった市町村と住民が共通の認識で保存と活用に取り組む必要性を感じるとともに、守る会の存在の重要性をあらためて痛感しました。



[川越の町づくりについて語る福川教授]

## 現地フィールドワーク

7つの班に別れて保存地区を中心に視察しました。保存地区の都市の骨格は、江戸期城下町の様相を残し、街路骨格にも五の字型割や丁字路などが多く残っています。中心をなすのが蔵造りの町家が並ぶ地区で、商業地としての重要な役割を担っていました。その他に寺社建築や時の鐘に加え、大正・昭和期の洋風建築物群も点在しています。これらの町並みに文化財としての各時代の歴史的価値を加え、町並み保存と人間らしい生活環境の実現をめざしているのが伝わってきました。

白川郷の山村景観と違い、もともと商用地であるため、店としての実用と景観保全がうまくできている地区のように感じました。理髪店や書店も土蔵造りの町並み景観を損なわないよう店構えを工夫し、建物の高さは1メートル以下等の景観基準に準じた町なみづくりや修景がなされていました。その背景には、昭和40年代後半より市民による蔵造りの保存運動が始まり、昭和58年には川越蔵の会が発足し、文化財の保存と町並みづくりの創造を推進してきたことがわかりました。



[ 蔵造りの町並みを走る主要道路 ]



[ 川越のシンボル時の鐘 ]

車の交通量が気になりました。保存地区を走る一番街の

道路は主要路の一つであり、昭和37年の都市計画によって現在の2倍の広さにする予定でしたが、伝建地区都市計画に伴い現状が維持されることになったそうです。商用地であり、その意味では大きな違和感はないのですが、土蔵の町並みにはやはりそぐわない感じがしました。景観保全と観光客の安全面か地域住民の便利さと主要道路の必然性が、本村と同様の問題をかかえている感じがしました。

地区内にある川越まつり会館は、江戸文化を伝え祭りの雰囲気を楽しむことができる貴重な施設となっていました。映像・音声の活用や山車の展示方法など、その地域の文化にひたりながらのんびりできる施設の存在は大事であると感じました。

そこに住む人々の息遣いを直接感じる場面には出会えませんでした。案内・説明くださる市職員や学芸員さんから、町づくりにかける情熱や誇りを感じた一時でした。

最終日のフィールドワークでは、市博物館が印象に残りました。多くの博物館は時代を追って順に回る形式を取っていますが、ここでは小江戸川越の特色を生かし、近世の展示フロアからスタートし内容

も充実していました。本村には個人の施設や野外博物館は存在しますが、本格的な博物館は残念ながらありません。世界遺産白川郷として、白川村の歴史文化に関わる本格的な施設が望まれるとともに、資料の保存スペースの確保と学習施設、学芸員の育成も含め、施設の必要性を強く感じました。

## 分科会意見交流会

住民参加者が3つの班に分散しての交流会。私の班は18地区24名が参加し、司会者をホスト地区の川越市NPO蔵の会の市川氏が務めました。テーマは「地区の活性化に向けた主な取り組み又は計画について」でしたが、司会者より「市民と行政のパートナーシップ、今後のビジョンの2点にしばって交流をと」という提案がなされ、それぞれの地区の現状が話し合われました。

については、どの地区も概ねうまくいっているようであり、本村も行政と住民の協働により伝建地区から世界遺産となり現在に至っていることを報告しました。うまくいっていない地区の要因としては、合併により自治体担当者と地域とのつながりが薄くなった点が指摘されました。その意味からも、白川が取った決断が正しかったと感じるとともに、今後も住民と自治体が一体となった活動を進めていく重要性を痛感しました。については、伝建地区の保存と活用にむけどの地区も努力していることがわかりました。町並み保存を観光につなげる努力(川越市他)、町並み保存の現状を通信やHPで発信し住民とともに情報を共有する努力(大分県日田市)、継承者の育成に力を入れる努力(滋

賀県東近江市)等が印象に残りました。中には観光化に力を入れている人が集まらない悩み、目的をもって来る人を受け入れる観光地にしたい、保存と開発の調和を図り平成の時代に何を残すかを考える、商業活性化による景観保存を考える発想等、様々な意見が交わされました。本村については、合掌造りを守ってきた住民憲章にはじまり昨年の国際フォーラム白川郷宣言につながる理念をどう具現化していくかが大きな課題である点を報告しました。時間のない中でも司会者から質問や意見を求められたのは白川村であり、農山村集落としての観光と景観の両立、交通問題等をはじめ、白川村が伝建地区の先駆者的立場にあり、善しも悪しきにも、全国から注目を浴びている地区である認識を強く感じた一時でした。



[ 熱く語り合う住民代表の意見交流会 ]

**情報交流会** 教育委員会近藤氏より文化庁の方々や大学教授をはじめ多くの方を紹介いただくとともに、様々な伝建地区の方々と交流することができました。中には白川村を訪れた方も多く、ここでも白川村が注目度の高い地区であることを感じました。また、五箇山、高山、高岡といった近隣地区の方々との交流を深めることができたのも大きな収穫でした。これを機会に、様々な地区を是非訪れてみたいと感じました。

**その他(来年度にむけて)** 次回平成19年度の開催地は富山県高岡市に決定しています。過去に本村で開催されたこともありましたが、所属団体が増え組織が大きくなった現在では、今後本村での開催は難しくなりました。その意味でも、次回の開催に対して白川村が協力かつ活用できる面は多々あるように思いました。伝建地区の先駆者として側面からの支援をおしまないとともに、住民が多くの伝建地区の方々と直接ふれあい学ぶよい機会であると感じました。白川村を中からながめ考えるだけでなく、外から他地区と比較し考えるよい機会でありますし、私が今回感じたように、白川村が全国の地区から大きな注目を集めている地区であるという誇りと責任を身をもって実感できると思います。聞くより見たり体験したりするのが一番。来年度は、地の利を生かし、バスをチャーターして高岡大会に参加してはいかがでしょうか！！

最後になりましたが、貴重な研修の機会を与えていただきました守る会の皆様、役場関係諸氏の皆様に感謝申し上げます、研修報告といたします。(文責：和田正人)

### 6月の協議事項(現状変更申請に関わって)

- \*\*\*\*\* . . . . . 屋根の修理
- \*\*\*\*\* . . . . . 屋根の修理
- \*\*\*\*\* . . . . . 背面 戸棚修理
- \*\*\*\*\* . . . . . 木立の伐採
- 白川八幡神社 . . . . . 本殿屋根の葺き替え  
『どぶろくの館』案内看板の設置
- 中部電力 . . . . . 電柱の設置